（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2770106991		
法人名	特定非営利活動法人NPO堺市グループホームシステム研究機構		
事業所名	グループホーム　アローラ　（3階）		
所在地	大阪府堺市北区長曽根町3065－1		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	平成25年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2－1－8　親和ビル4階
訪問調査日	平成25年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ建物内には、協力医療機関のクリニックが入っており、安心・安全な生活を送っていただくためには不可欠な医療体制が整っている。地下鉄御堂筋線新金岡駅から徒歩5分圏内にあり、面会に来られる際には恵まれた立地条件になっている。又、全室南向きで光が射し込む明るい居室となっており、季節感が分かるように、テラスには四季の花や野菜を植え、収穫した野菜を食卓に並べたりしている。2・3階合同のレクレーションを行って交流が図れるようにしたり、各階ではレクレーションを担当制にして実施し、楽しみのある生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

ヨ評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営				
(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「敬愛・真心・奉仕」の理念を毎日唱和してから業務に入ることや、日々の業務の中で理念に基づいた介護が提供できるように理事長や管理者と話し合う機会を設けている。		
(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事があれば、積極的に参加し、地域の人と触れ合う機会を作るよう心がけている。		
	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域代表者や民生委員の方たちに認知症の方の日常的なできごとや支援方法を伝えることで、認知症の理解ができるよう努めている。		
(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地域包括支援センター職員や民生委員、地域住民代表者、家族等が集まり活動の報告を行っている。又、頂いた意見をサービスに活かせるように努めている。		
(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、必ず地域包括支援センター職員から情報を頂くとともに、実際に起こった出来事を報告して意見を求める機会を作っている。		
(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画の中に身体拘束や虐待を取り入れ、利用者の状態に応じて職員全員で身体拘束をしないケアの方法を検討している。		
	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内外に関わらず、虐待を発見した場合の通報先を研修の中で伝えたり、虐待となる事例の報告などを行うことにより、虐待が身近に起こる可能性があることを話し合っている。		

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム全体会議で行われた成年後見制度についての勉強会に参加し、職員研修の中で伝えている。 又、今後必要になる可能性のある利用者の家族に説明している。		
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書の内容を、分かりやすく説明するよう心がけ、家族からの質問に丁寧に答えるよう努めている。		
(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、日々の面会時には利用者の様子を伝えるだけでなく、何でも話せるような関係作りを心がけている。		
(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長や管理者との定期的な個人面談を行い、仕事のやりがいなど、様々な意見を述べる機会を作り、その意見を反映できるように努めている。		
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長がクリニック院長を兼ねており、回診の際にスタッフの勤務状況を直接把握したり、キャリアパス制度の採用により、資格取得をしやすい環境の整備をしている。		
	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	副主任は、順に認知症介護実践者研修を受講してもらっており、スタッフの指導に当たるようにしている。また、外部研修を受講しやすいよう、業務の調整を行っている。		
	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のグループホーム会議や年2回の堺市全体会議には管理者が出席している。また、北区の勉強会で行われたオムツの当て方の講習会には、スタッフも参加し交流を図っている。		

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に家族から聞き取った情報を基にして、入居後に起こりうる不安や想いをスタッフで話し合い、安心して過ごせる馴染みの関係作りを心がけている。		
	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの様々な苦悩や入居させたことで感じられる想い、またこれからの生活の要望を聞き、一緒に考えていくことで信頼関係が築けるように努めている。		
	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の情報や実際に生活を送ってみて必要となる支援を、本人や家族様の意向を聞きながら行っている。		
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にしている家族と思ってもらえる様、料理や洗濯、掃除、買い物など出来る範囲でのお手伝いをお願いし共に行っている。		
	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活を共に支援していく対等な関係を築いていくため面会時逐一情報提供を行い、今後どの様に支援するかを話し合い、共に本人を支えていく関係を築けるように努めている。		
(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域交流会のイベントの参加や選挙に行ったりしている。知人や友人の面会があるので、何時でも面会ができるように面会時間を定めていない。		
	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の個性や利用者同士の関係性を把握して食堂の座席を決めたり、お手伝いをお願いする時には、一緒にできるよう声をかけている。		

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の施設へ情報提供を行ったり、退所手続き完了の際の連絡時には、家族と直接話をするようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望，意向を聞くように努め、カンファレンスの時に全職員で話し合っている。		
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサービス利用の情報や家族様の協力も得て、生活暦などの把握に努めたり、情報だけにとらわれることなく、様々な可能性があることを意識して支援するよう努めている。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状況を総合的に把握していくため知りえた情報を共有し、担当者が責任を持ってアセスメントを行っている。		
(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がアセスメントとモニタリングを行い全スタッフで意見を出し合い、家族様の要望を聞き計画を立てている。		
	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援した内容だけでなく、その時の様子を具体的に記録をしている。実践したい内容があれば、職員全体で話し合い取り組んでいる。		
	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	衣類や雑貨など家族様が持ってこられるが、都合で準備出来ない時は家族様の了解を得てから職員が対応している。		

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月の広報を確認したり、運営推進会議で民生委員やボランティアの方から聞いた情報を基にして、その人に合った活動や参加ができるように努めている。		
(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い本人や家族様に決めていただいている。希望あれば専門医の受診が出来る様に支援している。		
	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外部の訪問看護ステーションから定期的に訪問があり、提携している看護師にも相談できる体制をとって24時間対応でいち早く医療と連携出来る様にしている。		
	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の入居中の情報を書面で提供している。入院中は提携クリニックの医師が面会に行き、担当医師と状態の確認を行い適切な時期に退院出来る様努めている。		
(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を整えており、重度化した場合や看取りを希望された場合は、家族や本人、主治医、管理者を交えて今後の意向を確認し、その状況に応じた介護が提供出来る様にしている。		
	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で看護師から緊急時の対応方法を学んでいる。隔月で急変や事故を想定して自主救急訓練を行ったり、全職員が救命救急の受講をしている。		
(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署を交えての訓練や、隔月の自主消防訓練を入居者と一緒に行っている。地震などの災害時には、避難マニュアルを作成し備蓄品を備えている。		

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であることを意識して接し、理念である敬愛の精神で一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。		
	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ側で決めるのではなく、自分で選ぶことができるような声かけや環境を作り、自己決定出来る様支援している。		
	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごしてもらうため日課は決めておらず、その方の希望にそって支援している。		
	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でお化粧をする方もおられたり、月に1回訪問理美容師にカットや毛染めをお願いしている。		
(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のお楽しみランチやおやつレクを実施し、調理や盛り付けを一緒に行っている。毎日のメニュー書きや食器拭きを手伝って頂いている。		
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの摂取量の記入をし、咀嚼困難な方には形態変更して食べやすくしている。好き嫌いに応じて別メニューを提供している。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや介助、義歯を預かってポリデント洗浄行っている。訪問歯科による口腔ケアや必要時は治療を行い、適切なケアの方法の指導を受け実践している。		

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助の必要な利用者には、排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるように支援している。		
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師に便秘に関する相談をしたり、水分補給量を増やし、おやつ前の体操で体を動かしてもらったりしている。		
(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否する入居者には最後にゆっくりと入ってもらったり、時間指定の入居者には時間に合わせ入浴してもらっている。		
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の行動パターンに合った時間に寝てもらっている。眠れない方には落ち着いて休む気持ちになるまで談話室で過ごしてもらったり、日中傾眠が見られたら居室で休んで頂いている。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服薬ファイルを作りスタッフがいつでも見られるようにし、服薬時には側について服薬確認している。		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	部屋の掃除、シーツ交換や家事の手伝いなど、その人の出来る範囲で楽しみながらお手伝いして頂けるよう支援している。		
(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に出かけている。本人の希望を聞いて外食に行き、好きなメニューを選んでもらっている。		

外部	項　目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを頂いている方はいないが、今後は買い物時にお金を店員に渡して買い物する楽しみを味わって頂けるように取り組んでいきたい。		
	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が毎年手作りの年賀状を作り、家族様に出している。		
(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方にとって居心地のよい環境が作れるように努めている。季節感がわかるような壁画を張ったりテラスに花や野菜を植えている。玄関には絶やすことなく花を飾っている。		
	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも談話室や中央トイレ横のソファがあり思い思いに好む場所で過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や布団、仏壇など持ってきていただき、使い慣れた物を置くことで居心地よく過ごせるよう心がけている。		
	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内を安全に移動できるように廊下、トイレ、浴室に、手すりを取りつけている。迷わずにトイレに一人で行くことができるようにトイレの横にプレートを付けている。		